

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第6回理事会 開催日：9月22日。出席者：芝崎副会長，他 32 名。

協議事項

1. 日本金属学会主催「鉄鋼における変態と析出」セミナー協賛の件

日時・会場 43年11月19, 20日 大阪厚生年金会館

○協賛を決定

2. 日本塑性加工学会主催 第25回塑性加工シンポジウム協賛の件

日時・会場 43年11月18日 9:00~17:00 名古屋市公会堂

主 題 精密せん断

共 催 機械学会

協 賛 軽金属，精機，金属，伸銅，材料，鉄鋼各学協会

○協賛を決定

3. 第5回理工学における同位元素研究発表会の共同主催の件

共催分担金 1口 5000 円

○共催決定

4. 第7回原子力総合シンポジウム共催の件

日時・会場 1969年2月16・17日 国立教育会館

共催金 1口(5000円)以上

○共催決定

5. 昭和43年度品質管理大会共同主催名義許可の件

第7回職組長品質管理大会 重点テーマ「世界のリーダーシップは現場から」

会期・会場 11月4日~6日(東京日比谷・農協・産経・日経)

第18回品質管理大会 重点テーマ「QCの反省と前進」

会期・会場 11月13日~16日 東京(農協・産経・日経)

第6回トップマネジメント品質管理大会

重点テーマ「眼は世界，足元固めよQCで」

会期・会場 11月8日 東京(経団連)

○共催決定

6. 第5回X線材料強度に関する討論会協賛の件

主催 日本材料学会

主題 「金属材料の変形と破壊」

期日・会場 43年11月1日(金)・2日(土)

名古屋工業大学

○協賛決定

企 画 委 員 会

第6回委員会 開催日：9月12日。出席者：吉崎委員長，他 11 名。

議事概要

1. 明治100年記念外国人叙勲候補者推薦報告
鉄鋼関係より H. Schench (ドイツ鉄鋼協会会長)，Edgar C. Bain (U. S. Steel 元副社長) を推薦した旨報告があり承認された。

2. 秋季講演大会役員業務担当について承認

3. グライマックス・モリブデン社資金の件
創立 50 周年記念事業として上記会社より本会に文庫賞を設定するために毎年資金を寄贈したい旨申し出があり，本会表彰ならびに事業資金に毎年資金の寄贈を受け，他の賞とのバランスも考え賞を設定するのはどうかとの提案がなされ，さらに検討することとなった。

4. 他団体との共催，協賛について

(1) 理工学における同位元素研究発表会共同主催

(2) 原子力総合シンポジウム共催

(3) 品質管理大会共同主催

(4) X線材料強度に関する討論会協賛

いずれも共催，協賛することを決定

第6回研究委員会 開催日：9月3日。出席者：三本木委員長，他 24 名。

1. 報告事項

(1) 第1回西山記念技術講座

(2) 材料部会設立打合せ会

(3) 科学研究費のその後の問題

2. 審議事項

(1) 「金属研究の将来計画」の改訂について
前回より3年以上経過し，状況も変化してきているので現状に即したものに改訂することになった。

(2) 昭和44年度通産省重要技術研究開発補助金について

参加意志の有無，テーマなどについてアンケートをとったところ，住金・日本製鋼など9社より参加意志の表明があつたので10月初旬にテーマ，予算などにつき計画をたてる予定。

(3) 協賛 共催の件

第7回原子力総合シンポジウムなど5大会の協賛，共催を決定した。

編 集 委 員 会

第7回和文会誌分科会 開催日：9月6日。出席者：荒木主査，他 15 名。

1. 論文審査報告

12件の報告があり，掲載可8件，修正依頼4件。

2. 委員推薦原稿について

技術資料または展望1件，展望1件，解説1件，技術報告1件を依頼することになった。

3. 第54年第13号(11月号)掲載論文について

論文2件, 技術資料1件, 講義1件, 解説1件を選定した。

4. 索引について

索引について以前より改善したいとの意見があり, 事務局より, 従来の50音順の配列方法, 鉄鋼便覧の目次式の配列, UDC方式の配列の3種の特長, 欠点についての資料を提出し検討した。

その結果, 資料委員会におけるUDC方式が来年度中にでき上がる予定であるとのことと, さし当たり最もよい方法が見当たらないので, 索引の変更を重ねることは好ましくないため, 従来通りの方法でやり, 項目について調整を行なうことになった。なお今後根本的に検討しなおし, 改善を行なうことになった。

第7回欧文会誌分科会 開催日: 9月9日。出席者: 橋口主査, 他14名。

1. 8件の論文について審査報告がなされた。
2. 3件の論文につき Trans. ISIJ への執筆を勧誘することになった。

論文の脚注欄に研究した場所を明示することについて検討したが, 結論は次回分科会に持ち越された。

4. Trans. ISIJ, 8巻6号に掲載される総目録および著者名索引の体裁について検討された。その結果, 次回分科会までに事務局が2, 3の組み見本を用意し, それをもとにして体裁を決めることとなった。

第6回出版分科会 開催日: 9月4日。出席者: 佐藤主査, 他19名。

「鋼の熱処理」編集委員会も兼ねて行なつた。

1. 「原板マニュアル」出版企画について

共同研究会厚板分科会, 標準化委員会よりの「厚板マニュアル」出版企画について協会部員より説明があり, 協会としてはマニュアルのシリーズ出版も考えているとのことであり検討した。

分科会としては一環した思想のもののシリーズであることを望み, 各部会でできるだけ早い機会に検討してほしいということになり, 「原板マニュアル」は出版することとして仕事を進めることになった。

2. 「鋼の熱処理」査読について

原稿入手状況…3名未脱稿(9月7日までに脱稿)

査読状況………ほぼ完了

査読における種々の問題点を検討した。また別に内山幹事, 池田, 高橋両委員に全体の体裁を整えていただくこととなった。

資料委員会

第50回委員会 開催日: 9月3日。出席者: 草川委員長, 他12名。

1. 外国より翻訳依頼について

前回でも討論されたが, 今後依頼があつた場合は, 本委員会にかけ case by case で処理していくことに決定

2. 図書カード配布の件

協会作成の図書カードについて, 有償配布するよう意見が出されたが, 次回までに印刷費などについて必要予

算をたて検討した上決定する。

3. 共同研究会資料管理について

共研資料の管理については, 整理と検索を両立させることが大切であり, 次の意見が出た。

(1) 各社が資料を作成するときに30字以内でアブストラクトを書く。

(2) 用紙のサイズフォームなど規定する。

(3) これは会議開催案内状とともに送付する。

このアブストラクト作成については運営委員会にはかり各部会分科会が行なうよう周知徹底することが必要であるなど意見が出され今後検討していくことになった。

共同研究会
鉄鋼分析部会

第12回発光分光分析分科会 開催日: 8月29日。出席者: 杉山主査, 他33名。

1. JISG1253の改正について工業技術院長より正式に改正原案作成の委託があつた旨報告があつた。

2. JISG1203, 1253の改正原案作成経過について幹事より説明があつた。

3. JISG1203, 1253の改正原案の審議を行ない若干の訂正を行なつた後承認した。

4. 次回会議は11月15日に鋼管福山にて開催の予定。

第1回化学分析分科会 開催日: 8月23日。出席者: 神森主査, 他37名。

アンケートの結果化学分析分科会の設置に全委員が賛成したので, 新たに設置を決定し主査に八幡東研神森大彦氏, 幹事に八幡技研二村英治氏を選任した。

2. 分析規格体系調査委員会の審議状況を主査が説明し, 委員会で問題になっているJISの性格について討議を行なつた。

3. NBS標準試料の技術速報受信担当者を決めてほしいとNBS事務局から八幡宛連絡があつたが, 内容の性格上鉄鋼協会で受信し鉄鋼分析部会を通じ連絡してもらうことを決めた。

4. 炭素, けい素, マンガン, りん, いおう, クロムについて今後の研究計画を検討した。

5. 原子吸光分析法, 試料母液から多元素を分析する方法, 極微量成分分析法について検討を行なうことになった。

第15回鋼中非金属介在物分析小委員会

開催日: 8月30日。出席者: 成田委員長, 他12名。

1. 前回までに行なつてきた酸溶解法共同実験結果を最終的にとりまとめた資料が提出された。

2. 今回から鋼中のバナジウム化合物(とくに炭化バナジウム)の定量法の検討をおこなうことになった。幹事より鋼中のバナジウム化合物定量法に関する共同実験方案が提出され, 種々討議の結果, 塩酸室温分解法を併用することに決定した。

3. 第2回以降の共同実験用試料の調整を決定した。

.....

設備技術部会

第3回鉄鋼設備分科会 開催日：8月27、28日。出席者：上嶋主査，他 86 名。

今回は製鋼関係のテーマをとりあげ，2日間にわたり熱心な討議が行なわれた。

(議題)

1. 混鉄車の大型化
2. 混鉄炉およびオープンレードルの大型化
3. 混鉄車混鉄炉の集塵装置
4. 屑鉄の処理運搬および装入各設備の現状
5. 石灰焼成炉
6. 大型転炉における設計上の問題点
7. スラッジ処理について
8. 最近のストリッパークレーンの設計傾向
9. 転炉滓の処理方法

第2回圧延設備分科会 開催日：7月18、19日。出席者：豊田主査，他 75 名。

1. 前回同様テーマを分塊設備にしぼり，活発な討議が行なわれた。発表議題は次のとおりである。

- (1) 分塊圧延機スピンドルスリッパの摩耗
- (2) 鋼片マーキング装置
- (3) ユニバーサルミル堅ロール設備の諸問題
- (4) 堅ロール駆動系の部品製作について
- (5) 分塊圧延機テーブル設備の問題点について
- (6) フィードローラーについて
- (7) シャーナイフ台取付けについて
- (8) 分塊圧延機スクリュウおよびナットについて
- (9) ソーキングピットクレーンについて
- (10) フォーク部の折損について

2. 当分科会が保全整備をどう取り扱うかについて討議が行なわれ，別に分科会を設けることなく，この場で取り扱い，将来の国産化に必要な大保全問題のみをとりあげるべきという意見が多かった。これについては幹事会でより深く討議される。

3. 日立工場を見学後，盛会裡に第2回分科会を終了した。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第4回WG4分科会 開催日：9月4日。出席者：鈴木主査，他 11 名。

(1) 第1回 ISO 鉄鋼部会の報告

過日開かれた ISO 鉄鋼部会の議事概要につき，当部会議事録に従い報告された。

(2) Draft ISO Recommendation 書面審議回答の件 No 1358～No 1366 の Dr. ISO Recom. について，書面審議が来たので，これまでのいきさつを考慮し，回答したが，今回事後承認の形で報告し，了承された。

(3) 第10回 WG 4 国際会議出席の件

10月21日～24日に Philadelphia で開かれる標記会合に出席する日本代表者について報告され，了承された。

(4) ばね鋼，火災・高周波焼入鋼 ISO proposal の検討と日本 comments の作成

(3)の国際会議に対処するべく，幹事国からの proposal を逐条審議し，修正意見または会合当日提案する事項が決定された。

第1回WG9分科会 開催日：8月23日。出席者：安藤主査，他 16 名。

従来ぶりき分科会で，ISO 関係の業務を処理してきたが，ISO 鉄鋼部会が設置されたので今後 WG 9 分科会で ISO のブリキ関係の業務を処理することになり，第1回の分科会を開催した。

議事内容

1. 従来からの活動報告
2. 第6回国際会議(10月上旬於ベルギー)における議題であるブリキのコイルフォームとカナダ提出の包装に関する提案に対する日本の意見をまとめた。
3. 国際会議派遣者の決定を行なった。

第25回普通鋼分科会 開催日：7月29日。出席者：山岡主査，他 14 名。

鉄筋用丸鋼の強度計算に関し，従来は実断面積で除していたものを公称断面積に変更できないかという要望があり，この件について検討した結果，実質的に問題がないので可能である旨結論を得た。しかし径の細いものについては，現行の規格にある引張り強さの範囲が問題となるので，これを若干拡大することを検討することになった。

第1回機械試験方法分科会 開催日：8月30日。出席者：吉沢主査，他 17 名。

ISO より，鋼の引張り試験に関する規格の改訂原案の検討依頼があつたので，検討を行なった。下記の点を除いて賛成することとした。

1. 下降伏点の定義を変える。
2. K 値は再現性がないので，本文入れない。
3. 引張り速度の最低値を決める。

また，板とストリップの引張り試験，鋼線の引張り試験および管の引張り試験規格と比較すると，異なつてい

点があるので統一するように提案することとした。

第2回機械試験方法分科会 開催日：8月30日。出席者：吉沢主査，他 15 名。

ISO より回転曲げ疲れ試験，引張り圧縮疲れ試験およびねじり疲れ試験に関する規格の原案の検討依頼がきたので，検討を行なったところ，下記の回答をすることになった。

1. 回転曲げ疲れ試験……試験片の推奨外径と試験速度の2点を除いて賛成
2. 引張圧縮疲れ試験……賛成
3. ねじり疲れ試験……賛成

第23回機械試験方法分科会 開催日：9月17日。出席者：吉沢主査，他 15 名。

ISO より鋼板とストリップ，鋼管および鋼線の引張り試験，鋼線の単純ねじり試験および鋼線のくり返し曲げ試験に関する規格の素案が送られてきたので検討を行なった。引張り試験については第21回機械試験方法分科

会で検討した規格と比較しながら検討を行なった。意見は第 21 回のときの意見とほぼ同じであつたが、各規格間に若干の差異がみられるので、それらを統一するよう意見を提出することとなつた。なお、これらの素案についての会議が 12 月初めにロンドンで開催されることになつているが、日本からは出席せず、意見のみ提出することとした。

.....
第 3 回 JIS スーパーフィニッシュロックウェル硬さ試験方法原案作成分科会 開催日: 9 月 19 日。出席者: 吉沢主査, 他 20 名。

前回の会議の検討事項をもととして作成した素案について前もって各委員より意見を提出していただき、それに基づいて逐次検討を行なった。試験方法および試験機の大部分について検討を終わり、試験機の残りと基準片については次回に検討することとした。

昭和43年度第 1 回 JIS PC 鋼棒・鋼線原案分科会
 開催日: 7 月 23 日。出席者: 猪股主査, 他 42 名。

1. JIS-PC 鋼棒, 鋼線原案作成依頼の説明

工業技術院水野, 高木両技官より依頼の主旨説明があり, ついで鉄鋼協会より, 分科会設置までの経過報告が行なわれた。

2. アンケート集約結果の報告

分科会開催に先立ち, 先に JIS 原案作成についての問題点, 分科会の運営などに関するアンケートを求めているが, その結果をまとめた資料にもとづき, 山腰幹事より説明があつた。

3. JIS 制定, 見なおしについての討議

アンケート結果をもとに討議された。討議の結果, PC 鋼棒と PC 鋼線・鋼より線とは用途をはじめ, 種々条件が異なるため, 2 つの小委員会に分かれて検討することとなりそれぞれの検討項目, 委員構成が決定された。

昭和43年度第 1 回 JIS 熱間圧延鋼板と鋼帯の形状寸法および重量ならびにその許容差原案分科会

開催日: 8 月 15 日。出席者: 吉田主査, 他 26 名。

本 JIS 改正の経緯説明の後, 各委員の自己紹介があり各界より, 本 JIS に関する問題点, 要望を述べてもらいそれを元にして鉄鋼メーカー側で原案を作成することになつた。次回は 10 月 8 日。

鉄鋼標準試料委員会

第25回委員会 開催日: 8 月 28 日。出席者: 池上委員長, 他 20 名。

1. 昭和43年度第 2/4 期分譲状況報告

2. 製造状況報告

製造中の標準試料につき, 富士より銑鉄, 八幡より炭素鋼・窒素専用鋼, 川鉄より微量元素シリーズの報告があつた。

3. 住金が製造した酸素分析専用鋼の分析成績表を審議した。市販の際は使用説明書を添布することになり, なお今回製造した試料は 18 組しかないのので, 必要とする委員に優先的に配布し余りがあれば一般に頒布することにした。

4. NBS 標準試料の技術連報受信者を協会が引き受けることになつた。

5. 鉄鉱石標準試料の経年変化について鋼管技研より説明があつた。

鉄鋼基礎共同研究会非金属介在物部会

第 8 回部会 開催日: 8 月 9 日。出席者: 荒木部会長 他 47 名。

以下の研究発表が行なわれた。

1. 委試研究発表

(1) EPMA による鋼中非金属介在物の研究

京大工 盛利貞, 吉野俊郎

(2) リムド鋼中の非金属介在物の研究

北大理 丹羽貴知蔵, 新谷光二

(3) リムド鋼の加工性に及ぼす非金属介在物の影響

阪大工 美馬源次郎, ほか

(4) カルシウム脱酸鋼の介在物の同定

東大工 荒木透, 佐川竜平, ほか

(5) 溶鉄のジルコニウムによる脱酸と脱窒反応生成物について 東工大 有田稔, ほか

(6) リムド鋼中の非金属介在物の加熱中における変化 名大工 佐野幸吉

2. 特別講演

(1) マイクロアナライザーによる鋼中非金属介在物の研究 住友金属 藤野允克

(2) アルミ-シリコンキルド鋼塊の凝固組織と酸化物系介在物について 富士製鉄 浅野鋼一

第25回 塑性加工シンポジウム

— 精 密 せん断 —

主 催 日本塑性加工学会 協 賛 日本機械学会, 日本鉄鋼協会, ほか 5 学会

日 時 昭和 43 年 11 月 18 日 (月) 9:00~17:00

場 所 名古屋市公会堂 (4 階ホール) 名古屋市昭和区鶴舞町 61-1

1. 総 論

2. せん断加工の力学的考察

東 大 前 田 禎 三君

東工大 神 馬 敬君ほか 5 件

テキスト代金 会 員 (協賛の学協会員を含む) 1,000 円 非会員 2,000 円

申込締切 昭和 43 年 11 月 9 日 (土)

申込方法 はがき大の用紙に氏名, 通信先, 出欠の有無, テキスト冊数, 所属学協会名を明記し代金を添えなるべく現金書留でお申し込みください。

申 込 先 (106) 東京都港区六本木 7-22-1 東京大学生産技術研究所内 日本塑性加工学会